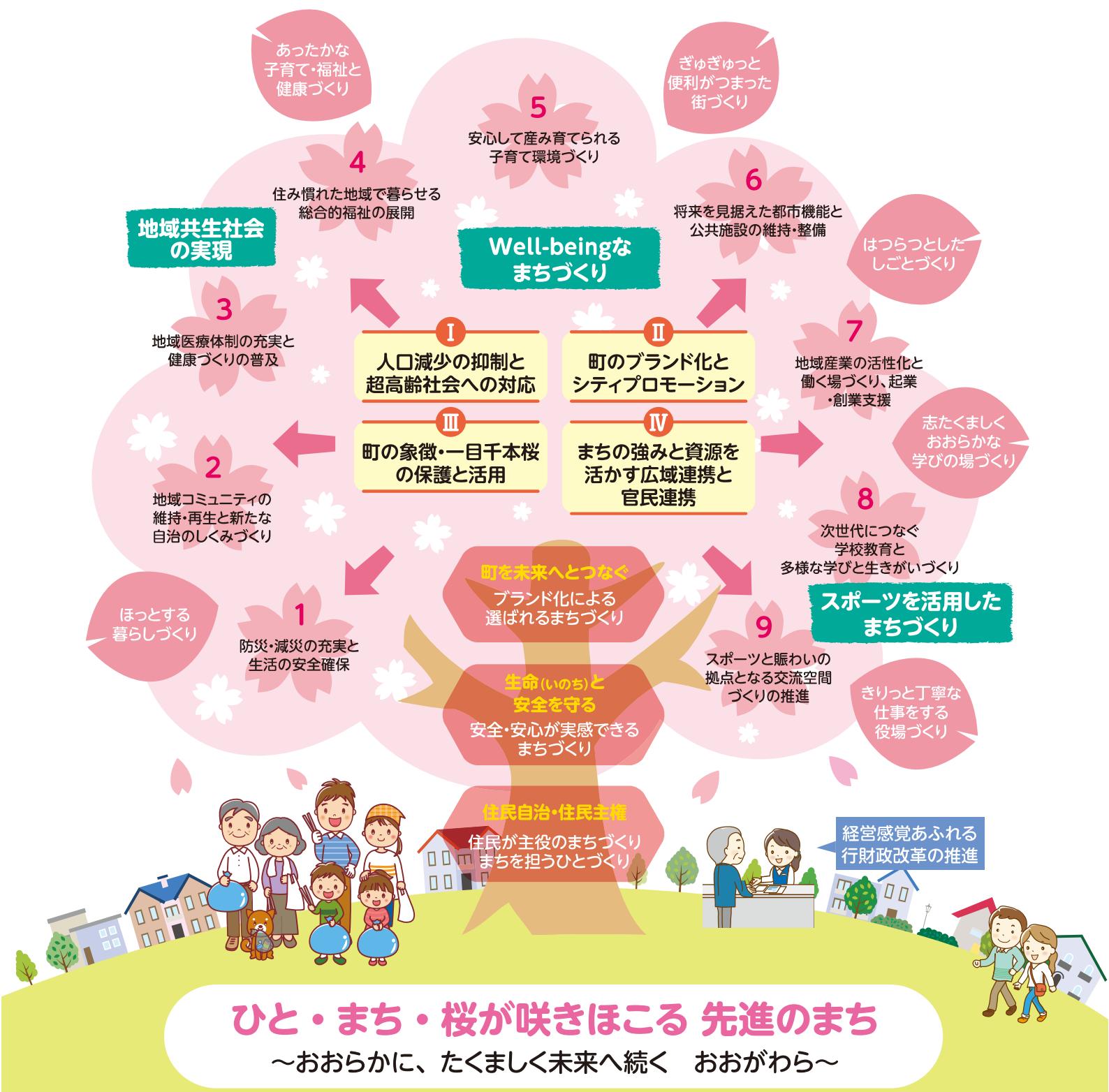


# 第6次 大河原町長期総合計画 後期基本計画

令和6年度～令和11年度



令和6年3月

大河原町



## 後期基本計画策定にあたり



大河原町長 齋 清 志

平成31年3月に第6次大河原町長期総合計画(令和元年度～11年度)を策定しました。まちの将来像(ビジョン)を「ひと・まち・桜が咲きほこる 先進のまち」と掲げ、基本構想を具現化すべく方向性を示した前期基本計画期間の5年が経過します。

この間、我が国では人口減少社会の加速により少子高齢化が顕著に現れ、生産年齢人口の減少により経済が停滞する中、地方自治体では自然災害や国内外情勢等複合的な影響を受け、地域のポテンシャルを発揮することができない状況にありました。本町でも、令和元年の台風19号襲来による被害、令和2年からは長期化した新型コロナウイルス感染症蔓延、国際紛争、円安、エネルギー・物価高騰などの影響を受け、暮らしや仕事等に閉塞感、不安感が押し寄せることとなりました。目まぐるしい緊急課題の連続に対し、町としても一丸となり難局に対応してきたところですが、前期基本計画としては描いていた成果に至っていない点もあったものと受け止めています。

そのような予測困難な時代を経験し、町では前期基本計画で示した政策・施策の評価・検証を行い、令和6年度から11年度に向けた後期基本計画を策定しました。

前期基本計画期間に受けた厳しい現実からの教訓として、私たちが求める重要なものの一つは『健康であり、幸福に感じる不安のない暮らし』と捉えたところです。町では、まちづくりの原点に立ち返り、住民の幸福を目指すことの再認識から、心身ともに健康で幸福な状態を継続する「Well-beingなまちづくり」の推進を重点の①に。また、コロナ禍により、これまで培ってきた様々なつながりが希薄化したことから、社会的包摂や誰一人取り残さない視点とともに、人と人、人と地域、地域と地域がつながり支え合う「地域共生社会の実現」を重点の②に。加えて、日常での体を動かす様々なことをスポーツととらえ、健康の喜び、元気が活気につながる「スポーツを活用したまちづくり」を重点の③として、後期基本計画に位置付けました。

本町は仙南地域における中心性・拠点性・利便性を有し、高い健康意識や恵まれた医療環境、教育(学力向上)や子育て支援の重視、一目千本桜を含めた自然・住環境などの特徴を有しています。今のところ、人口も子どもの数も働き手も維持しておりますが、より持続性のあるまちを目指して、賑わいの創出や郷土愛・シビックプライドを育む事業などにも注力していくたいと考えています。今後も「選ばれる先進のまち」を目指して、社会環境の変化に柔軟に対応しながら、後期基本計画の一つひとつの政策・施策を着実に実施してまいります。

最後に、本計画策定に関し、長期間にわたり真剣な議論を重ねていただきました大河原町まちづくり審議会の皆様、住民満足度調査へのご協力、地区懇談会に参加いただいた皆様、慎重かつ活発なご審議をいただきました町議会議員各位のほか、計画策定に関わっていただきましたすべての皆様に心から感謝申し上げます。



# 目 次

## I 序論

1. 後期基本計画策定の趣旨	1
2. 町を取り巻く社会情勢	2
3. 住民ニーズの確認	3
4. 後期基本計画で重視すること	4
5. まちづくりの大切な視点への追加	5
6. 一目千本桜プロジェクト	7
7. まちづくりの基本方針	8
8. 人口目標	10
9. 計画の進行管理	11

## II 後期基本計画

計画体系図	13
第1章 生活環境・住民自治	14
第2章 子育て・健康福祉	30
第3章 都市計画・街づくり	59
第4章 産業・観光	73
第5章 学校教育・生涯学習	82
第6章 行政・組織経営	100

## III 資料編

1. 後期基本計画の策定経過	111
住民満足度調査の結果	117
地区懇談会の開催内容	121
2. 後期計画6カ年度の財政見通し	127
3. 政策・施策の目標指標一覧	128